

句集

鱗

うろこ

高橋とも子

朝日新聞社

すさまじき能装束の鱗かな

ユトリ口の白の昏さよ冬隣

中也忌の夕日へシャドーボクシング

稲妻光りやまず星野道夫死す

秋霖や光源氏のひとでなし



冬鷗デジャ・ビユの閃きのやうに

白風船反旗のごとく少女行く

まつさきに蛇に駆け寄る少女かな

少年の白刃の裸身荒御輿

かんざしを買ふ少年の夏祭

あはあはと乳暈透きぬ磯焚火

花冷や火花散るまで髪を梳く

白鳥の首を抱きて眠りたし

冷えびえと革手袋の愛撫受く

春山のやうなをとこと朝寝せり

春満月発破の匂ふ男かな

蜂の巢の火の見櫓にぶら下がる

干されたる若布に光る塩の粒

烈風の水門に浮く柳の葉

砂山に荒布の茎の突き出せる

嘴に蠅螂の翅はみ出せり

栗拾ふ髪つやつやと秩父の子

チューリップむく犬ふかふかに洗ふ

百貫の海草採りし日焼かな

潮焼の肩に子を載せ月の道

探梅の舟に華やぐ京ことば

鳥の恋豊葦原は晴れ渡り

春の星はるか来し子がふらここに

青嵐樹の頂に子がひとり

夕風や龍宮に灯のともりたる

三鬼の忌ファウル・フライの落ちて来ず

春の婚太平洋を祭壇に

瀑落つる断頭台の刃のごとく

踏み入れれば飛沫のごとく蝗かな

貝割菜類杖ついてゐるやうな

曼珠沙華天より射込まれしごとく

紅梅や肉豊かなる伎芸天

不器男忌や抽斗深く肥後守

ぞんぶんに啼きて鶯帰りけり

田植機のバックミラーに紅を引く

花過ぎの能楽堂に熟寝せり

雉子啼くや木地師塗師と酌み交し

荒磯飛ぶ子を春日ごと抱き締む

爪先に魔物の触るる春炬燵

直面のもののおふ若し初桜

四隅より水の浸みくる春田かな

夏潮の香り籠りし髪を抱く

亀の子の桜田門に泳ぎ着く

炎天をまっさかさまに尾長の死

少年の頃を知りたし白緋

えごの花載りたる水のくぼみかな

夏の月背広に昼の殺気かな

黄落やラストシーンのハイヒール

落とし水南瓜の蔓を叩きをり

青銅の乳房に熟柿落ちにけり

猿酒山に見慣れぬ灯の揺るる

栗干して胡麻干して村音も無し

白鳥の首を抱きて眠りたし

初夢の龍の鱗のやはらかき

憂国忌まっしるに足袋洗ひけり

胸
に
秘
す
記
念
日
の
あ
り
冬
薔
薇

著者略歴

高橋とも子 (たかはし・ともこ)

昭和27年 (1952) 1月22日 茨城県に生まれる

平成7年 (1989) 「百鳥」入会 大串章に師事 作句を始める

平成11年 (1993) 「百鳥賞」受賞

平成11年 (1993) 「百鳥」同人 「百鳥」編集部に参加

住所 = 〒270-2261 千葉県松戸市常盤平団地1-42-103

2001年7月10日 第一刷発行

句集 鱗

著者 高橋とも子

発行者 大上朝美

発行所 朝日新聞社

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

電話 03 (3545) 0131 (代表)

編集 ウエップ編集室

俳句朝日編集部

販売 出版販売部

振替 00190・0155414

印刷 株式会社東京印書館

※定価はケースに表示してあります

ISBN4-02-33068-1